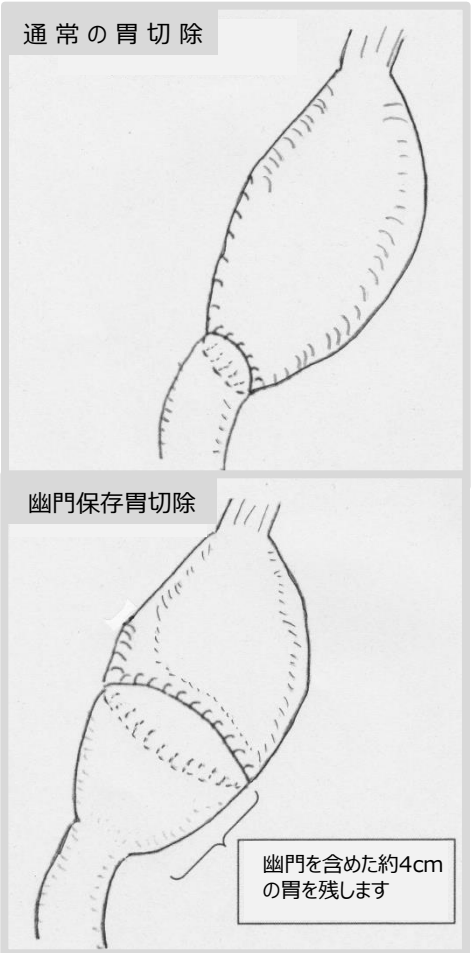
消化器センター NEWーす

NO. 7
2016.1

謹んで新春のご祝詞を申し上げます

胃がん術後の苦痛を減らせるように手術術式の工夫を行っています

幽門保存胃切除術のご紹介



胃切除により食生活やお腹の機能は大きな影響を受けるため、術後患者さんの苦痛の原因となります。幽門は胃と十二指腸の境目にあり、幽門があることで食べた物を胃の中に蓄え撹拌消化し、消化し易い形になったものを少しずつ十二指腸に送ることが出来ます。

通常の胃切除術では幽門も含めて約半分の胃を切除するため、少ししか食べられない、食欲が湧かない、摂取した食物が急速に小腸に落下し腹痛やふらつきを起こす（ダンピング症状）、下痢に悩む、などの症状を術後経験することになります。胃のなかほどにある早期がんに対しては、胃の出口にあたる幽門を含めた約4ｃｍの胃を残す幽門保存胃切除術を行うことが出来ます。幽門機能を残すことで、ダンピング症状や胃切除後の貧血と胆石症の発生が防止できるとされています。また、術後の体重減少が少ないことも報告されています。

当院では、適応のある方には積極的に幽門保存胃切除を行ってきました。早期がんが適応ですので、腹腔鏡を用いた手術を行い良好な結果を得てきました。胃がんも早期に発見された場合、このように胃の機能を温存する縮小手術が可能となります。従来であれば胃を全摘してきたケースにも、上部の胃のみを切除する噴門側胃切除術が可能です。別の機会に、この手術についてもご紹介いたします。

市立貝塚病院
Kaizuka City Hospital

外科　川田　純司
辻仲　利政

☎ 072-422-5865